



国際交流基金

<http://www.jpff.go.jp/>

PRESS RELEASE

Aug. 25, 2006, No. 177

中国からの高校生長期招へい事業がスタートします。

ジャパンファウンデーションが、主として若者間の交流を促進するために今年4月に設置した「日中交流センター」の事業の柱の一つ、中国の高校生招へい事業の長期プログラムがいよいよ9月からスタートします。中国の高校生に約一年間の日本滞在の機会を提供し、その生活を通して日本の政治・経済・伝統・文化を知ること、同時に日本の人々にも中国人と直接交流する機会を提供すること、これらにより"人"と"人"の心のつながりをつくり、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる信頼関係を築くことをめざします。また日中交流センターのウェブサイト上で、中国の高校生たちの体験談や日々の生活で感じたことを彼らが撮影した写真とともに掲載する予定です。

実施時期 2006年9月7日(来日) ~ 2007年7月末

招へい人数 32名(女19名、男13名)

* 32名のほかAFS日本協会を通じ招へいする5名(女3名、男2名)が8月25日から来年夏までの日本滞在を開始。

人選 国際交流基金が中国教育部(日本の文科省に相当)の協力を得て実施

* 今年度は、吉林省・遼寧省・山東省・江蘇省から選抜。中国国内で高校一年の過程を終了した、日本語専攻の生徒(16-17歳)。

受け入れ 12都道府県16校との共同事業として実施

* 外国人留学生の受け入れ実績がある学校を中心に、札幌日大・立命館慶祥・仙台育英・土浦日大・千葉国際・暁星国際・長野県立上田染谷丘・大阪府立夕陽丘・岡山共生・早稲・山口桜ヶ丘・香川西・愛媛県立松山南・明德義塾・沖縄尚学・沖縄県立向陽。住居は学校付設の寮も利用しつつ、滞在中に日本の家庭生活を体験するホームステイを組み入れる。約11カ月の滞在期間中は、勉学のほか各校でクラブ活動も行い、また各地域の国際交流協会や日中友好協会、さらに中国人留学生会等により実施される地域活動等、あるいは地元企業や市民団体が企画するボランティア活動にも参加する機会をつくり、より多くの人々と出会うことが可能になるプログラムを組む。離日前には報告会を実施する予定。

協力企業 特別協力 全日本空輸株式会社 協力 ソニー中国、株式会社資生堂

お問合せ 日中交流センター(担当:小島/富樫) 電話:03-5562-3639

<http://www.chinacenter.jp/news/news003.html>

「地球を、開けよう。」

情報センター
〒107-6021 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル21階
Tel:03-5562-3538 Fax:03-5562-3534